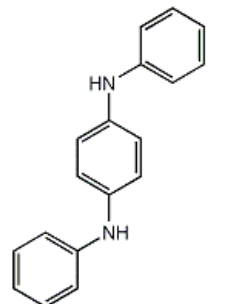
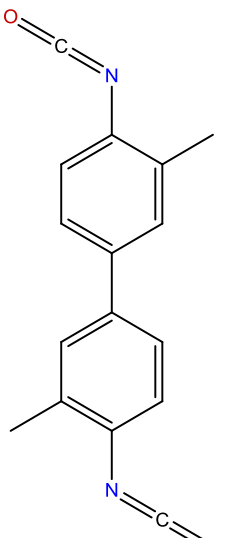
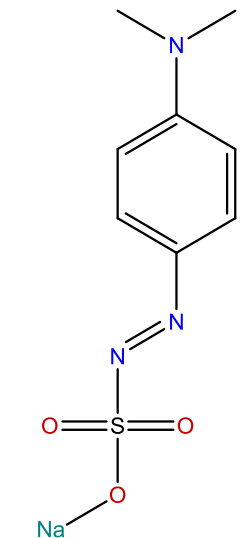


構造活性相関検討結果(専門家からの意見聴取(その2)に係る物質)

名称	CAS	エームス試験					染色体異常試験					がん原性試験(参考)					排出・移動量合計(kg)	生産量等(t)(注3)	生産量等(t)(注4)	用途	①融点(°C) ②沸点(°C) ③蒸気圧	性状	IARC	ACGIH	EPA	がん原性情報(2年間試験)	変異原性情報	対象となった理由(注5)	備考				
		DEREK	MCASE	Aworks	構造相関判定結果(注1)	試験結果	DEREK	MCASE	Aworks	構造相関判定結果(注1)	試験結果	DEREK	McCase	ADMEWORKS	構造相関判定結果(注2)	試験結果																	
		K	E	CL_KNN_3	kirkland	SVM.SV.M.1	k	kirland	SVM.SV.M.1	DEREK	Carcinogenicity-Mice	Carcinogenicity-Rats	Carc.SV.M.ADA.1	Carc.SV.M.SVM.1	Carc.SV.M.KNN.1																		
B1 N,N'-ジフェニル-1,4-フェニレンジアミン 	74-31-7	-	-	-	陰性	陽性	+	+	+	陽性	陽性	-	-	-	+	+	+	陰性	試験なし	-	15	記載なし	有機ゴム薬品(老化防止剤)	① 150-151 ② 220-225 ③ 6.35E-09 mmHg (25°C)	淡褐色ないし淡灰緑色の微粉末	-	-	-	-	-	微生物を用いる変異原性試験 陽性(最大比活性値 1000以上) ほ乳類培養細胞を用いる染色体異常試験 陽性(D20=0.0067) ※既存化学物質変異原性試験データ集補遺4版(JETOC.2008)	A	
B2 3,3'-ジメチル-4,4'-ピフェニレンジイソシアネート (o-トリジン・ジイソシアネート) 	91-97-4	+	+	+	陽性	陽性	+	-	+	陽性	陽性	-	-	+	-	-	-	陰性	試験なし	-	400	記載なし	ウレタンエラストマー原料、パッキング材原料	① 70 ② 314 ③ 0.01 mmHg (93°C)	固体	-	-	-	-	-	微生物を用いる変異原性試験 陽性(TA98(+), TA1538(+), 最大比活性値 13900) ほ乳類培養細胞を用いる染色体異常試験 陽性(D20=0.79) ※既存化学物質変異原性試験データ集補遺4版(JETOC.2008)	A	
B3 硫酸パラジメチルアミノフェニルジアンモニウムナトリウム 	140-56-7	+	+	-	陽性	陰性	-	-	+	陰性	陽性	+	-	-	+	-	-	陰性	陰性	-	記載なし	記載なし	殺菌剤(失効農薬) 出典 NITE調査	① 200 °C以上で分解 ② - ③ 5.7E-13mmHg (25°C)	固体	-	-	-	ラット、マウスの混餌試験で腫瘍の発生増加はみられなかった。(NCI TR-101)	微生物を用いる変異原性試験 陰性 ほ乳類培養細胞を用いる染色体異常試験 陽性(RTECS)	B		

(注1) 構造活性相関の結果判定は「予測不能」がある等価の場合は陽性として評価した。
 (注2) 構造活性相関、がん原性の結果判定は、DEREK、McCase、ADMEWORKSそれぞれについて行い、3手法のうち多数のものを最終的判定とした。
 (注3) 「15710の化学商品」(化学工業日報社)に記載の2008年生産量、輸入量、輸出品の場合も有り。
 (注4) H19年度製造・輸入量-経済産業省実態調査結果(10のべき乗表示) 又は H20年化審法監視化学物質届出結果
 (注5) A: 変異原性が認められた既存化学物質、B: 国際機関で発がん性が分類できないとされた物質、C: 優先評価物質

労働現場におけるばく露形態として一般的に最も可能性が高いとされる「吸入」によるがん原性試験を優先的に行う物質を選定するための基礎資料(ヒト又は動物に対する吸入ばく露による実際のがん原性は上記の全ての物質について不明)